

黙示録1章： イエス・キリストの黙示(啓示)

1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

「イエス・キリストの黙示」： 黙示録のテーマ(主題)

黙示＝覆いを取り除かれること。

覆いがかかっているイエス様の栄光の姿が現れる。

「すぐに起こるはずの事」： 時の切迫

「時が近づいているからである(4節)」

「今は救いが私たちにもっと近づいているからです。(ローマ 13:11)」

「だから、あなたがたも用意していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。

(マタイ 24:44)」

1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかした。1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

「幸いである」

1)朗読する者 2)聞く者 3)心に留める人々(または、守る者)

1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、1:5a また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。

「アジアにある七つの教会」： 全ての教会

アジア＝小アジア、今のトルコのこと

「七つ」小アジアには七つ以上の教会があった。ここ「七」は“完全”を表す。

例：第七日目(創世 2:3)、七度(ヨシュア 6:15)、七十倍(マタイ 18:22)

「常にいまし、昔いまし、後に来られる方」「七つの御霊」「イエス・キリスト」： 三位一体の神

「七つの御霊」 イザヤ 11章 2節に御霊の七つの性質が書かれている。

「イエス・キリスト」

1) 忠実な証人： 主は忠実に、父なる神を証しされた。

「わたしを見た者は、父を見たのです。(ヨハネ 14:9)」

2) 死者の中から最初によみがえられた方： 二度と死なない形で初めて復活された

「まず初穂であるキリスト、次のキリストの再臨のときキリストに属する者です。(1コリント 15:23)」

3) 地上の王たちの支配者： これが、黙示録が中心的に啓示しているもの

1:5b イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解放し、1:6 また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。

「イエス・キリストは私たちを愛して」： イエス様と私たちとの関係

1)「愛して」

2)「その血によって私たちを罪から解放し」

3)「私たちを王国とし、…祭司としてくださった」

この「王国」は「王」と訳すこともできる。

→ 私たちは、キリストとともに神の国を統べ治めて、祭司の務めを行なう。

1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。

「彼が、雲に乗って来られる」

「人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗ってくるのを見るのです。(マタイ 24:30)」

「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。(使徒 1:11)」

「すべての目…が、彼を見る。」： イエス様は密かに一部の者だけに再臨されるのではない。

「だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる。』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしゃる。』と聞いても、信じてはいけません。人の子の来るのは、いはずが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。(マタイ 24:26-27)」

「ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る」： ユダヤ人が再臨のキリストを見る。

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく

泣くように、その者のために激しく泣く。(ゼカリヤ 12:10)」

1:8 神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

「アルファであり、オメガである」：ギリシヤ語のアルファベットの最初の文字と最後の文字。

神が最初であり、最後である、という意味。

→ イエス様が「わたしは、最初であり、最後であり(17 節)」「わたしはアルファであり、オメガである。(黙示 22:13)」と言われた。つまり、御父とイエス様は一つ。

1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

「あなたがたの兄弟」「ともに…あずかっている者」：ヨハネの謙虚さ

ヨハネは生き残った最後のイエスの弟子であり使徒。エペソの教会の長老。

けれども、教会の兄弟と同じところに立った。

「イエスにある苦難」：クリスチャンに対する迫害。

皇帝ネロネロ → パウロとペテロが殉教

皇帝ドミティアヌス도미티아누스(81-96年) → この時にヨハネがパトモス島に流刑された。

1:10 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。

「主の日」：これは日曜日のことではなく、終わりの「大患難」のこと

「見よ。主の日が来る。残酷な日だ。憤りと燃える怒りをもって、地を荒れすたらせ、罪人たちをそこから根絶やしにする。(イザヤ 13:9)」

「主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。(1テサロニケ 5:2-3)」

→ つまりヨハネは、御霊によって、終わりの患難期に移されたということ。

1:10 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。1:11 その声はこう言った。「あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、

テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。」1:12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。

「七つの金の燭台」： 幕屋や神殿の聖所にあった「ミノラ」のこと。

1:13 それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。1:14 その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。1:15 その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゆうのようであり、その声は大水の音のようであった。1:16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

「燭台の真中」： イエス様が教会の真中におられる。

「七つの燭台は七つの教会である(20 節)」

「あなたがたは、世界の光です。(マタイ 5:14)」

「照り輝く太陽のようであった」： 栄光の主の姿

「私が見ていると、幾つかの御座が備えられ、年を経た方が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりけのない羊の毛のようであった。(ダニエル 7:9)」

「今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。(ヨハネ 17:5)」

→ イエス様が私たち教会の真中におられて、その栄光に照らして教会を評価される(2-3 章)。

1:17a それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。

「死者のようになった」

ダニエルも同じ経験をした(ダニエル 8:27)

パウロは、サタンからの刺が与えられた(2コリント 12:7)

1:17a しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、
1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。

「死とハデスのかぎ」： 死に勝利された主

「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放して下さるためでした。(ヘブル 2:15)」

1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

ここが、黙示録全体を読み解くための鍵になる。

1. 「あなたの見た事」

ヨハネが今、栄光の主の御姿を見た。→ 黙示録1章

2. 「今ある事」

七つの教会(教会全体のこと) → 黙示録2-3章

3. 「この後に起こる事」

教会の事の後に起こる事 → 黙示録4章以降

黙示録 4 章 1 節「ここに上れ。この後、必ず起こることをあなたに示そう。」

→ 特に、4章以降を教会時代の出来事と混同しないように注意。

1) 地上の教会の働きには終わりがある。

「不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。(2テサロニケ 2:7)」

2) 主が空中に戻ってこられる時、教会は地上から取り去られて天に移る。

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。(1テサロニケ 4:16-17)」

3) 教会が取り去られた後に、神が怒りを地上に下される。

1:20 わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

「七つの教会の御使いたち」： 主の御言葉を教会に伝える御使いたち

2-3章にある七つの教会は・・・

- 1) 当時あった七つのそれぞれの教会に対する言葉。
- 2) すべての歴史的教会を、時間を追って順番に主が語っておられる。
- 3) 現在の教会に対して語っておられる。